

作品一つひとつと向き合って  
一人ひとりと向き合っています。

陶芸家・若狭祐介さん



Go ON!



寶持寺  
山下崇晴さん



工房では、陶芸家・蓮尾寧子さんと並んで作品づくりに没頭。2階にあるギャラリーでは2人の手掛けた作品を買うことも可能です。

その時、若狭さんの祖父が寝る間を惜しんで、夢中になっていたのが、陶芸だった。すごく楽しそうな祖父の姿を見た若狭さんは、次第に陶芸に興味を持つようになっていったという。「朝から晩まで、ずっと作業を見ていたのですが、祖父はお前もやってみるか?」とは言わない。そしたら自然と触ってみたくなって。いざ陶芸をやってみると『なんかしつくり来た』というわけです(笑)陶芸の道へ進むきっかけをくれた祖父との思い出と共に、導かれるように移り住んだこの地。若狭さんにとつては、ある意味この場所が、パワースポットなのだろう。

### 祖父の後押しで、本格的な陶芸の道へ

陶芸に触れるうちに、思い出していくモノづくりの楽しさ。気づけば、陶芸にハマっている自分がいた。「僕って図工が好きだったなあ…と陶芸に触れた

いた祖父だった。「当時は社会に対する反抗心もあつたし、勝手に裏切られた気持ちになっていたんです。そんな時、家族とか周りにいる人たち以上に僕ときちんと向き合ってくれたのが祖父でした。ああしろ、こうしろとも言わず、大きな包容力で包んでくれる。だから、毎週末何をするわけでもないのですが、広島市内からバイクでここまで来て、祖父と一緒に時間過ごしていました」

いた祖父だった。「当時は社会に対する反抗心もあつたし、勝手に裏切られた気持ちになっていたんです。

そんな時、家族とか周りにいる人たち以上に僕とき

ちんと向き合ってくれたのが祖父でした。ああしろ、

こうしろとも言わず、大きな包容力で包んでくれる。

だから、毎週末何をするわけでもないのですが、広

島市内からバイクでここまで来て、祖父と一緒に時

間を過ごしていました」

### 違うを生みだし『超えるモノ』を作りたい

制作過程の中で『違うとは何か』を常に考えているという若狭さん。「たくさん陶芸家がいますが、僕たちはどうしても違うを出さなければいけない。多くの人に作品を届けたいからこそ、何を作るにしても、違いを生みだすことを僕はとても大事にしています」若狭さんは日常で使える器類からオブジェまで、さまざまな作品を作っている。「どちらかといふと造形作品が好きで、オブジェを作つてたのですが、デツサンや形を一からひねり出すだけ物凄く時間がかかるし、体力的にもしんどい。そういう時の発想転換で、美術的要素も含まれたモノ



陶芸家夫婦が肩を並べて、作品づくりに勤しんでいる、陶芸工房と工房併設ギャラリー・10サンジ。思いがたくさん詰まつたこの場所から、若狭さんは今日も誰かの人生に作品を届けています。



陶芸工房

工房併設

ギャラリー

10サンジ

0823 57 6020  
(※見学は事前連絡が必須です)

ETAJIMA Go ON!

Vol.4

Vol.4  
大柿町・柿浦  
陶芸家  
わかさ  
若狭祐介



写真撮影:コニンシュンスケ

### 導かれるように 祖父との思い出の場所へ来た

若狭祐介さんと蓮尾寧子さん夫婦が営む、看板の無い陶芸工房と工房併設ギャラリー・10サンジ。全国各地のお店や展示会で巡り合うことのできる2人の作品は、ここから生まれている。若狭さんは、10年前に祖父の家であつたこの家へ、同じく陶芸家である妻の寧子さんと共に移り住んだ。「環境は制作に適していると思います。気候も穏やかで、静かで。元々、祖父が住んでいた場所という地縁もありますし、とても気に入っています」

優しい眼差しでお話してくれるたくさんの思い出話。その中心には【祖父】の存在があった。「これから的人生を決めていく時に、自分がしたいと思えることが何もなかつたんです。この先どうしたらいいのかと何年も悩んでいた時期があつて、閑々として過ごしていました」10代半ば、思春期を迎えた若狭さんに向き合つてくれたのが、この家に住んで

## 誰かの人生へ 作品を届ける場所

陶芸工房と工房併設ギャラリー・10サンジ  
陶芸家夫婦が営むこの場所には  
たくさんの素敵なお思い出と  
美しく、温かい作品が詰まっています。